

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

2015年5月31日～6月9日オランダ出張報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

例年の6月期出張よりやや長めの10日間の出張でした。

数日前までは、5月期/6月期の2回、2ヶ月に分けて出張していたのを、1回に減らし出張日数を伸ばした訳です。(昨年から。)

現地では、他輸入業社(バヤ)と、同じタイミングで同じ温室を視察するというケースが発生し、日本の輸入業社の方々だけでなく、アメリカ(珍しい!)・中国・台湾・韓国・インドなど、知り合いの業界人が多かったので、内容のある歓談が出来ました。

今回の「リレーズニ百合展示会」では、日本、そして他の国の方々も、例年より滞在期間が明らかに長かった様です。(フワートリアルもあったから…)

各社の『視点』が明らかに変わったように思いました。

理由は様々でしょうが、輸出業社の品質調査温室に滞在する時間がずいぶん伸びた様です…。素晴らしい!!

育種会社温室

- * どうやら15年/16年、この2年間は、「大きなステップ」が踏まれる年となるのではないのでしょうか? 『2020年以降の百合』『やっと来た!』という感想でした。
- * 経営計画の見直しをしなければならぬかも…。

ブレター社

A.H/L.A系

2015年/2016年(来年)で、L.Aがものすごく進化する様です。

キーワードは、「花保ち」「最終花開花性」「小球利用可能品種」です。

既に14年試験から兆しがありましたが、飛躍的に変化するはず。2017～2020年頃には、日本の主要品種を変えてくる流れが生まれるだろうと思いました。

ルージュ・白・ピンクに注目。黄色・赤は、もう少し待ちましょう。(アティとか…良いんだけど…相変わらず苦土欠…)

異種間交配

「LOO」「LOOT」「LOLA」など、様々な交配が実行され始めています。

ルージュの鉄砲百合が出来ました!

O.H系

やや進化速度に停滞感が出ています。

既存の品種を大幅に進化させるという勢いは、感じませんでした。

イメージ的には、90年代にもう一度立ち返っている様です。忘れていた『何か』を思い出したのだと思います。(7~10年後の為！むしろ前向きにとらえています。)

今年は、オランダの若い球根農家を中心に「もう一度O.H系を見直す動き」が明らかに出ていました。開発の継続を期待しています。そこから、O.T系の正常進化も起きると考えられます。

昨年から取り組みが見られた八重O.H系…世代が進むごとに進化が確認されます。
もう少し開発が進まないかと…。

O.T系

10年選抜までは、全く持ってつまらない。

11年選抜で、「おや？」

12年選抜で、「あれ？もしかして、くる？」

というイメージです。

日本の球根業界の皆様においては、白色O.T系については、是非12年以降選抜品種に注目してもらいたいモノです。(2019~2020年頃から流通が始まる？当社隔離試験栽培温室には、QW12以降の新系統が栽培されています。)

ピンク色・赤色については、13年選抜から期待できる様です。(今年最終評価がされる。したがって、私たちはまだ見ていない事になります。)

マククリー社育種家・アーリー・ペータン氏/ブレッター社育種家・アーリー・ブレッター氏の育成種両系統が融合して、初めて最終選抜をするのが今年からなのです。(13年選抜分。ちなみにL.Aは12年選抜分からすでに融合が始まっている。レンジはすごいのが来そうです。)

白O.T系については、特に期待しています。(繰り返しになりますが、QW12以降の新系統が当社隔離栽培温室にて栽培されています。)

東京オリンピックまでに、シベリアの後継品種がO.T系から生まれるかもしれません。(実際の流通はもっと先…。)

もしそうなったら…本当に驚きです…。(まさかO.Tから…。)

O.T系については、この会社から次世代の中心品種が出てくるのではないかと思います。(オランダと刊…その気象条件を活かして、他社との比較で育種速度が2.3倍くらい早い。育種の為に確保されている母本は、他社の数倍規模となってきた。)

パンガテン社

A.H/L.A系

ブレッター社、後ほど説明するデヨング社のL.A系が台頭してくるまでは、頑張るのではないかと思います。

異種間交配

ブレッター社同様に頑張っている様に見えます。

案外面白いですよ…パンガアとか…。

においの少ない、香りの良い百合を作りたいんですね。

O.T系

ブレッター社の品種が台頭してくるまでは、しばらく世の中をリードするのではないかと思います。(必ずしも日本で…という意味ではありません。)

たった今ならオランダ・プレミアムプロントタイプ[®]のマーケット用品種が出てきている様に見えますもの…。ただ待っているのは、シベリアタイプ[®]マーケット用の品種なわけで…。

O.H系

今回の出張で、この会社のO.H系が最も驚くべき進化を進めたように思いました。

草丈、蕾の大きさ（中・小輪！）、枝の角度、花保ち、蕾の水キープ力 etc.

他の育種会社がまだ到達できていないレベルにステップ UP したように見えました。（酷暑期用対策品種も出る！）

正直なお話をさせてもらえば…

昨年までの状況では、「今後、酷暑期用 O.H 系開発はされないのでは…」とさえ思っていました。

仮に開発されても、「フランス球根農家が、O.H 系新品種を栽培してくれなくなるのでは…」と。

本当に心配していたのです。

他の育種会社の方からのコメントでは、

5～10 年前から日本の温室で試験栽培をするようになり（育種会社が直接オブルを送ってくる様になり）、尚且つ育種会社自らが現地生育状況の確認を実行する様になってから…

『O.T 育種は、未熟であり、多くの問題が整理されないまま品種が販売され過ぎた事に、気が付いている。』（世界市場視点）

『きっとバンザン社は、O.H 系に求められる事が何なのか気が付いていて、その開発・修正速度を落とさなかったのだろう』（世界市場視点）

『日本の期待に応えられそうなモノが、やっと出てきたんだという事だ！』

『O.T 系育種の軌道修正にはもう少し時間がかかりそうです。』

球根農家もその事に気が付き始めた様なのです！

過去 10 年間で言えば、球根生産農家にとっては、明らかに O.T 系球根生産の方が利益を生んでいました。（新興国の消費がフランス百合球根産業をけん引していた。⇨実は、黄色という新しい色が…どちらかはわからない。）

O.H 系を消費する国は経済が低迷していたり、個人消費市場が中心で業務消費市場規模が小さかったり。球根農家は O.H 系球根を作っても損するばかり…。（百合球根生産分野の収益指標グラフを見ると、過去 10 年間で黒字の年は 2 回しかない…これも驚きでした。）

本当に、使い物になるか、ならないか、わからない。

O.T 系新品種に無我夢中で飛びつき過ぎて…。

Plamv 問題がその流れをさらに加速させました…。(O.H 系でずいぶん痛めつけられた…。本質的には、O.T でも L.A でも、この病気についてはダメなものはダメ！急速な Plamv 洗浄作業が進んでもらわなければ！)

中国市場・韓国市場に、飽和感が出てきています。

ベトナム市場においては、明らかにビギナーズミステイク⇨過剰輸入の気配が感じられます。

O.T 系新品種の導入に積極的な台湾の消費量だけでは、最近開発された新品種を仮に全て消費しきれたとしても、既存の O.H/O.T 系までも使い切れるものではありません。

*球根農家は、世界消費を勘案すれば、O.H 系も継続生産し続ける方が経営的にリスクヘッジ出来そうな事に気が付き始めました。（球根・切花、生産性の良い O.T 系だけでは無理…やはり O.H 系みたいにキレイで尚且つ総合的に「商品としての力」が無ければ…。）

今年、この 2015 年に見た品種が実際に市場に数十万球、数百万球規模で流通するのは、4～7 年後くらいの話です。

そして、その球根生産と流通は、今までのショッピング感覚では無理。新しい（古い？）流通方法・取引方法となると考えられます。

昨年まではほとんど真っ暗闇で、「いったい何時？本当に来るのか？」という状態だったわけですから。

4～7 年先には出てくるという目途が立っただけでも、私個人的には嬉しくてたまりません。興奮状態です。

（イパケの大きさは…オガブツカ・スター G・ループの後…アブル・マルポロを経て…メデュサ・リボンに出会った時

くらいの衝撃なのです。少なくともシーラやイローウインの時よりも衝撃的…だって全然なかったのだから…。)

過去5~6年、そして向こう数年間は、既存の品種を使って各切花生産地に各コンディション別球根を駆使し、切花生産の安定化に努めていただきたいものです。

この事に早めに気が付いた輸出業者からは、有望新品種の供給が既に始まりつつあります。フォルダ・フイェス球根生産グループが選んでくれたO.H系品種も悪くないと思います。

もう少しだけ辛抱してください。必ず出てきます。

14年産オランダ産/フランス産球根取引において、

重要な基幹品種/球根が無い中で、厳しい球根仕入を行わなければならなかった経験は必ず生かされると思います。(既に15年産では、お客様皆様のその球根の買い方にその兆しが出ています。ご自身で気が付いていますか?これも嬉しくてたまりません。)

V.Z社においても近年取り組みが見られた八重O.H系(ソルボンダブル/クリスタルブランカダブルが親に使われている。この流れは、他育種会社には全くない。他はアスカの流れか、ミスレーの流れとの事。)は、もう少し時間がかかる様ですが…期待はしています

V.Z社ではこの他に、『花粉なし』の系統が開発育成される様です。(ポーレンフリー。)

市場ニーズは、こちらについても大きいのでは…?(花粉が無い事による香りの抑制効果。花卉が花粉によって汚れない。)

ワールドフラワー社

L.A系

L.Aが復活…3年ほど前にピート・エバース氏(オランダ・L.A最大手切花農家)と私が偶然にも一緒に選んだ5品種を含む7品種が発表されていました。

この会社が、L.Aの新品種を発表するのは、本当に久しぶりでした。

O.T系

O.T系では、大きな進化は確認できませんでした。

隠れている?

O.H系

O.H系には注目に値する物が、数品種あったように思います。

選別温室は、確認できませんでした。何か隠れている様な気がします。

水上げ・草丈・到花日数…課題設定が明確です。分かりやすい設定なのが逆にありがたい。

16年産では、カスターニアが4~6ha規模まで生産面積が増加予定との事です。期待しています。

マック社

O.H/O.T系

O.T系で3品種、O.H系で2品種ほど注目に値する品種があったように思います。

その内、黄色のO.T系は、イローウインの後継種とは言えないまでも、カーナ・セノ以上の仕事をしてくれるように思いました。

当然コンカール・マサよりは、日本向きだと考えられます。

*ところで、どうやらこの会社の『テーブルダンス』は、世界市場ではヒット作となりそうです。

『ザンバジ』は、他のO.T系との比較で(あくまでも他と比べて)花粉が落ちにくい・花卉を汚しにくいという極だった優秀な特性がありそうだとされていました。(本当?もしそうなら凄いですね!)

選別温室は確認できませんでした。

何か隠れている様な気がします。例えばT.Aとか…。

デヨング社

0.H系

まだまだです。

いくらか使い物になりそうな品種は出てきていますが、小球多花性で、比較的低温作型で仕事をしてもらって…、難しい作型用が出てくるのはもう少し時間がかかるのでは？

A.H/L.A系

先にブレッタ社を見てしまった為、ややイパ外に欠けますが、それは昔からの話…、この会社の品種特徴。派手さはない…。

セラダ・イローダ 仲の後継種、セバコデジールの後継種、その他、『これはインディアンダ 仲・エズリバルくらいには主要品種化できる。』

仕事をしそうな品種が確認され始めました。

地味ですが、今年の進化は、素晴らしかったと思います。

ドライセル市場用の開発も見逃せません。

旧友であるアーリアルダース氏が、この会社に入社してくれた事も追い風になる様に思います。

*ところでブレッタ社の白L.Aの中に、ついにクリア・リトウエンの替わりを努めてくれそうな品種が出てきている様です。

やっとなです…。すごいです。

その他の展示

オジナルグループ（ホルタ社+R.L 社展示温室の案内をしてくれました。）、バンデマレル社、マククリー社、リーカンパニー社、それぞれ確認はしてきました。

今すぐ使えそうな品種（向こう3~5年間くらい）いくらある様ですが…。

目先を変えるくらいの効果かなあ～。

赤0.T系の中で素晴らしいと思う品種があったと思います。

白0.H系の中にやや緑色がかった、姉ブラカを上向きにしたような品種があった様です。（名前は…「マキ…」まだ正式に決まっていません！昨年からの隔離試験栽培で当社温室に導入されています。某関西大手市場K氏に聞いてみて下さい…。）

各輸出業社 品質調査温室

日本の主要球根業社は、例年より長くオランダに滞在した様です。

独自のコンディションを作れるかどうかはともかく、各々のコンディションの違いを見極めていただけたのではないのでしょうか？

なぜフランス産は早い作型で使ってはいけないのか？

早い作型では、J.Wセレクトは、抜群のパフォーマンス。J.Wレートは、やはり早い作型ではパツとしない、やはり抑制で、とか…。

P.O.F-K は、へたすればマックよりも良さそう…。(遅い作型はやはりマックかな？でもオランダ産切花用球根生産が無い…。母球生産のみ…。)

P.O.Fは、3ロットから4ロットに追加…。(生産者数ではありませんよ！ロット数です。念の為。)

もう大丈夫ですよ？ (生き残る日本向け球根農家・生き残る日本向け品種を作りましょう。いつまでも暴落待ちでは…出来ませんよ！)

今後は是非、各々のロットの球根生産圃場も輸入業者様ご自身でご確認いただきたいものです！

『球根業社経営者は、球根生産現場から離れるな！見る目を養え！見る目を鍛えろ！』（先代社長の言い付け。）

14年産のフランス産は、ウイルス（LMOV）が少なそうです。標準フランス産 TL 球は、へたすると HLCTL よりも良いものが出てきそうです。15年産も十分期待できると思います。

＊重要：フランス・ドイツ・ベルギーへの球根生産拡大は、ほぼ確実に起きます。（農薬規制問題・連作回避・検疫問題の需要度は増してきます。）

各輸出業社温室は、各々の特徴が良い意味でも悪い意味でも、良く出ていたと思えました。

2軒のオランダ生産農家ともじっくり、それぞれ1時間以上時間をかけて話が出来ました。
6軒のフランス産球根生産農家（オナー農家）とも話が出来ました。
思っていた以上に前向きでいてくれて、驚いていますし、嬉しかったです。

オランダ 百合球根取扱業社社長/経営者層は、大体45～55歳の方が多いのです。残念ながら20～30代にはまだ後継者層が育ってきていません。（日本ではそろそろ出てくるみたい。頑張っ！）

一方、オランダの百合球根栽培農家の経営者層は、55～70歳の方が多い。（若いころ百合で大儲け…。）
45～55歳の方は非常に少ない。（70歳以上の後継者層ですよ…。球根業社の経営者層とは真逆になっている…。）

25～42歳の方は多く、特に20代半ば～30代後半に、優秀な後継者が育ってきている様に見えます。（55～70歳の後継者…。）

さらに、オランダ 百合切花農家経営者層は、40～65歳くらいまでの間で成功している方が多く、30代はあまり見受けられません。（なぜ？）

20代に見込の有りそうな若手が増えてきている様に見えます。

30年近くもオランダを見続けていると、「やはり農業なんだ」・「やはり世襲なんだ」・「やはり時代時代の経済の影響を受けるんだ」という事が見えてきます。（ビックリするくらい親戚・遠戚関係の球根農家が多い！日本の切花産地も似ていませんか？）

どうやって、日本の百合業界にこの事を伝えていけば良いでしょうか？今日本が進んでいる道は…。やや安易な方向に向かっている様で…若干心配しています。

そんなことも併せて考えさせられた出張でした。

ここ10年間の5月/6月期オランダ出張の中では、最も前向きにモノを見る事が出来た年となった様です。

**当社試験栽培もポチポチ見頃となり始めます。LAが満開です。すごいですよ！
この次お会いした時にまたお話しさせてください。**

よろしくお願ひ致します。

ご不明な点等、お問い合わせください。



以上 森山 隆